

|              |     |    |              |      |     |      |
|--------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| キリスト教〈キリスト教〉 | クラス |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| キリスト教と文化     | ①/② |    | 11117        | Ⅲ    | 春／秋 |      |
| 担当者名         | 区分  | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 尾崎 秀夫        | 選択  | 2  |              |      |     |      |

## 授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教にかんしても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

## 授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

## 授業計画

- 1 導入
- 2 聖書と歴史
- 3 出エジプトと歴史研究(1)
- 4 出エジプトと歴史研究(1)
- 5 古代における宇宙観
- 6 古代における天動説と地動説
- 7 中世における天動説
- 8 コペルニクス(1)
- 9 コペルニクス(2)
- 10 ジョルダナーノ・ブルーノの地動説
- 11 ガリレオ・ガリレイ(1)
- 12 ガリレオガリレイ(2)
- 13 科学の発達とキリスト教
- 14 聖骸布
- 15 まとめ

## 授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

## 準備学修

地動説について復習しておくこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

## 課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

## 欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

## テキスト

とくに定めない。

## 留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

|                                        |                         |    |              |      |     |      |
|----------------------------------------|-------------------------|----|--------------|------|-----|------|
| 基礎〈基礎〉                                 | クラス                     |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 基礎演習 I                                 | ET①/ET②/PC①/PC②/PC③/PC④ |    | 11201        | I    | 春   |      |
| 担当者名                                   | 区分                      | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 一尾 敏正/佐伯 瑠璃子/中園 佐恵子/渋谷 美智/山本 直子/渡邊 恵梨佳 | 必修                      | 1  |              |      |     |      |

## 授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学に必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、I（知性）を養う。

## 授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

## 授業計画

- 1 (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
- (2)言語1
- 2 オリエンテーション(図書館の利用方法について)
- (1)言語2
- (2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
- (1)言語3
- (2)キャンパスライフ(クラスでの自己紹介)
- (1)言語4
- (2)キャンパスライフ(相談)
- (1)社会1
- (2)キャンパスライフ(課外活動について)
- (1)社会2
- (2)キャンパスライフ(課外活動について)
- (1)社会3
- (2)キャンパスライフ(課外活動)
- (1)社会4
- (2)スタディスキル(受講)
- (1)数学1
- (2)スタディスキル(理解と表現1)
- (1)数学2
- (2)スタディスキル(理解と表現2)
- (1)数学3

- (2)キャンパスライフ(今後の学修について)
- (1)数学4
- (2)キャンパスライフ(学生相談)
- (1)確認試験1
- (2)スタディスキル(理解と表現3)
- (1)確認試験2
- (2)スタディスキル確認演習

## 授業の方法

演習形式

## 準備学修

webで参照すること。

## 課題・評価方法、その他

リメディアル 50%（平常点70% 定期試験30%）  
後半学習50%（平常点70% eラーニング30%）

## 欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

## テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育伸社）  
3訂 大学 学びのことははじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

## 留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| 基礎〈基礎〉                                 | クラス                     |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|----------------------------------------|-------------------------|----|--------------|------|-----|------|
| 基礎演習Ⅱ                                  | ET①/ET②/PC①/PC②/PC③/PC④ |    | 11205        | I    | 秋   |      |
| 担当者名                                   | 区分                      | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 一尾 敏正／佐伯 瑠璃子／中國 佐恵子／渋谷 美智／山本 直子／渡邊 恵梨佳 | 必修                      | 1  |              |      |     |      |

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、I（知性）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、資格免許を取得するための実習について、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)言語1  
(2)オリエンテーション
- 2 (1)言語2  
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 3 (1)言語3  
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 4 (1)言語4  
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 5 (1)社会1  
(2)スタディスキル(教学カルテ入力について)
- 6 (1)社会2  
(2)キャリアデザイン(社会意識1)
- 7 (1)社会3  
(2)キャリアデザイン(社会意識2)
- 8 (1)社会4  
(2)キャリアデザイン(社会意識3)
- 9 (1)数学1  
(2)キャリアデザイン(社会意識4)
- 10 (1)数学2  
(2)スタディスキル(リサーチ1)
- 11 (1)数学3  
(2)スタディスキル(リサーチ2)

- 12 (1)数学4  
(2)スタディスキル(リサーチ3)
- 13 (1)確認試験1  
(2)社会人への一歩(今後の学修について)
- 14 (1)確認試験2  
(2)スタディスキル(リサーチ4)
- 15 (1)確認試験3  
(2)アカデミックスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかり、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法、その他

リメディアル50％（平常点70％ 定期試験30％）  
後半学修50％（平常点60％ eラーニング30％ 教学カルテ10％）

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育伸社）  
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を取らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト20クリアをすること。教学カルテも評価対象とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| 基礎〈基礎〉                         | クラス                 |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------------------------|---------------------|----|--------------|------|-----|------|
| 海星学Ⅰ                           | ET①/ET②/PC①/PC②/PC③ |    | 11206        | Ⅱ    | 春   |      |
| 担当者名                           | 区分                  | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 佐伯 瑠璃子／吉野 美智子／渋谷 美智／南 夏世／山本 直子 | 必修                  | 1  |              |      |     |      |

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史について理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目について学び、並行して行われるキャリアプログラムと合わせ、内面的に自らを磨き、自身のキャリアデザインを描くとともに、自らの考えを構築していく。

授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつける。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムでは、社会で働くことや職種・業界などについて学び、自身の将来に意識を向けていく。

また海星学ⅠⅡを通して、提示されたボランティア活動に参加し、自身の経験や社会性などを育む。授業は内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

授業計画

- 1 ポートフォリオ(学生カルテ)
- 2 海星学とは
- 3 キャリアプログラム1「社会を知る・年金制度」
- 4 キャリアプログラム2「社会で働くとは」
- 5 キャリアプログラム3「職種・業界を学ぶ」
- 6 キャリアプログラム4「キャリアを考える」
- 7 進路を踏まえた今後の学びについて
- 8 海星の歴史と建学の精神
- 9 KAISEIパーソナリティについて
- 10 KAISEIパーソナリティについて
- 11 KAISEIパーソナリティについて
- 12 KAISEIパーソナリティについて
- 13 KAISEIパーソナリティについて
- 14 海星学の理解と自分の振り返り
- 15 ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレ

ゼンテーションなど授業によってさまざまな形態で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①各教員から課題が与えられる。フィードバックの方法は教員によって異なる。
- ②平常点40％、定期試験30％ eラーニング30％

欠席について

出席を重視する。欠席が5回を超えると単位は修得できない。

テキスト

プリントを使用

留意事項

ステラワーク（スタンダード）の実力診断テストを、同じ科目に偏ることなく100点10クリアすること。  
教学カルテを入力しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 感情・人格心理学         |     |    | 17311        | I    | 春   |      |
| 担当者名             | 区分  | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 中園 佐恵子           | 選択  | 2  | 臨床心理士、公認心理師  |      |     |      |

### 授業の到達目標

心理学の様々な理論、人格の形成要因や発達過程、感情が行動におよぼす影響、心の病などの視点から人格とは何かを学び、人間の個別性を理解することで人間の心に関する理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を学ぶ。

### 授業の概要

人間の行動の仕方には個人差があることから人格という言葉が生まれた。その複雑な個人差を測定する方法を知るとともに、人格の形成過程や人格理論、さらには不適応の問題についても学び、自己と他者のより深い理解をめざす。

### 授業計画

- 1 はじめに:人格の定義と歴史
- 2 人格を理解する観点と理論Ⅰ:理論
- 3 人格を理解する観点と理論Ⅱ:類型論
- 4 人格を理解する観点と理論Ⅲ:特性論
- 5 人格の発達Ⅰ:人格形成の要因
- 6 人格の発達Ⅱ:ライフサイクル
- 7 人格と関係性
- 8 人間関係と性格(適性)
- 9 適性とやる気
- 10 適応と不適応
- 11 パーソナリティと不適応
- 12 交流分析とTEGⅡ他心理査定
- 13 感情とは何かⅠ-感情に関する理論および感情喚起の機序
- 14 感情とは何かⅡ-感情の進化と行動に及ぼす影響
- 15 総括

### 授業の方法

講義とグループワークを中心とする。また、適宜心理検査を紹介する。

### 準備学修

授業後の復習が必要である。

### 課題・評価方法、その他

定期試験（50%）、小レポート（20%）、出席状況（15%）、授業後の感想レポート（15%）

### 欠席について

欠席が5回以上で不合格とする。

### テキスト

適宜プリント資料として配布する。

### 参考図書

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊『性格心理学への招待 自分を知り他者を理解するために』サイエンス社  
大山泰宏・佐々木玲仁『感情・人格心理学』NHK出版

### 留意事項

「授業」は授業者と学生の相互の協力のもとに成立するものであるから、学生諸君は要望、意見を忌憚なく述べて欲しい。

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 臨床心理学概論          |     |    | 17327        | Ⅱ    | 春   |      |
| 担当者名             | 区分  | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 中園 佐恵子           | 選択  | 2  | 臨床心理士、公認心理師  |      |     |      |

### 授業の到達目標

臨床心理学の誕生から現在までの歴史的変遷を概観し、臨床心理学の代表的な理論について学習する。その上で、臨床心理学の実際として、心理アセスメントと基本的な心理療法について学ぶ。そして最終的に、臨床心理学における基礎知識とさらに、臨床心理学的に人間を理解するという視点を獲得する事を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

本講義では、臨床心理学の成り立ちを歴史的変遷を通して概観し、その発展を支え、臨床心理学の基礎となった代表的な学者の理論（人格理論・精神発達理論）を中心に解説していく。また、実際の臨床場面において使われている心理アセスメントや代表的な心理療法についても紹介していく。そして、最終的に臨床心理学的観点から人間を理解することについて考えてもらう。

### 授業計画

- 1 臨床心理学とは
- 2 臨床心理学の成り立ち
- 3 こころのしくみとパーソナリティ①フロイトの考え方
- 4 こころのしくみとパーソナリティ②ユングの考え方
- 5 こころの発達理論①エリクソンの考え方
- 6 こころの発達理論②クラインの考え方
- 7 こころの発達理論③マラーの考え方
- 8 こころの発達理論④ウイニコットの考え方
- 9 臨床心理学の実際ー心理アセスメントについて
- 10 臨床心理学の実際ー心理療法とは
- 11 心理療法①精神分析療法・分析心理学派
- 12 心理療法②クライエント中心療法
- 13 心理療法③森田療法・内観療法・遊戯療法
- 14 心理療法④芸術療法・認知行動療法・家族療法
- 15 総括・テスト

### 授業の方法

講義を中心に進めていくが、授業時間中にわからなかったところなどを確認するために、感想レポートなどの提出も適宜課していく。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

実習などの特別な欠席を除き、1回の欠席につき、2点を減点する。

### テキスト

特に決まったテキストは用いない。

### 参考図書

授業の中でその都度紹介する。

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 心理学実験            |     |    | 17342        | Ⅱ    | 秋   |      |
| 担当者名             | 区分  | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 中園 佐恵子           | 選択  | 2  | 臨床心理士、公認心理師  |      |     |      |

## 授業の到達目標

心理学研究のとりわけ実験的な手法について、問題と目的の設定、実験計画の方法、実験手続き、結果の処理、考察にいたるまでのプロセスを学ぶ。実験実習を通して「実験の計画立案」と「統計に関する基礎的な知識」について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

## 授業の概要

知覚から記憶までの広い範囲にわたる基礎的な実験心理学の課題に、学生各自が実験者・被験者となって取り組みながら、その手法を学んでいく。各実験毎にレポートを課す。各実験とレポートの書き方、説明とがワンセットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートは書けないことになるので注意すること。

## 授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 心理学実験と統計の基礎知識
- 3 知覚1ーミューラー・リヤー錯覚
- 4 知覚2ーミューラー・リヤー錯覚
- 5 認知・学習1ー鏡映描写
- 6 認知・学習2ー鏡映描写
- 7 記憶と忘却1
- 8 記憶と忘却2
- 9 要求水準1
- 10 要求水準2
- 11 イメージの測定(SD法)1
- 12 イメージの測定(SD法)2
- 13 社会的促進1
- 14 社会的促進2
- 15 まとめ

## 授業の方法

主に実習（実験）形式で行う。

## 準備学修

平均値の求め方を復習しておく。各実験レポートを作成する。（10

時間）

## 課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。  
平常点70%、定期試験30%

## 欠席について

学内の規定に従う。

## テキスト

適宜配布する。

## 留意事項

結果の処理にあたり、各自電算機を用意しておくこと。

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス |    | 科目コード                                             | 配当年次 | 期 間 | 人数制限                        |
|------------------|-----|----|---------------------------------------------------|------|-----|-----------------------------|
| 心理的アセスメント        |     |    | 17344                                             | Ⅱ    | 秋   | 最大20名まで。超過の場合は資格取得予定者優先とする。 |
| 担当者名             | 区分  | 単位 | 科目と関係のある実務経験                                      |      |     |                             |
| 中植 満美子           | 選択  | 2  | 臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士 |      |     |                             |

## 授業の到達目標

心理的アセスメントの目的及び倫理、そして心理的アセスメントの観点及び展開について学ぶ。心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を実際に体験し、その分析結果を適切な記録及び報告としてまとめることが出来るようになる。基本的な心理検査を通じて自己分析し、自己理解につなげる。また、子ども理解を深めるために、子どもの発達状況を捉える発達検査や知能検査について知り、実施方法を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

## 授業の概要

基本的な心理検査・発達検査・知能検査等を、検査者・被検者の両方の立場で体験し、検査の背景・実施方法・検査結果のまとめ方を学び、身に付ける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

## 授業計画

- 1 はじめに：心理検査法概論
- 2 東大式エゴグラム
- 3 矢田部・ギルフォード性格検査
- 4 コーネルメディカルインデックス
- 5 BIG FIVE尺度
- 6 津守・稲毛式乳幼児発達診断1
- 7 津守・稲毛式乳幼児発達診断2
- 8 遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査
- 9 新版K式発達検査①
- 10 新版K式発達検査②
- 11 新版K式発達検査③
- 12 WISC知能検査①
- 13 WISC知能検査②
- 14 WISC知能検査③
- 15 総括・期末試験

## 授業の方法

毎回テーマとなる検査を実施し、検査結果の所見をレポートで提出させる。

## 準備学修

Webで参照すること。

## 課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

## 欠席について

全てのレポート作成と提出で合格となるため、欠席は認められない。やむを得ず欠席した場合は必ず教員指定の日時に補習を受けること。

## テキスト

資料を毎回の授業中に配布予定。

## 参考図書

適宜紹介する。

## 留意事項

検査についての事前学習・事後学習を行い、理解を深めること。

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 心理学的支援法          |     |    | 17383        | Ⅲ    | 秋   |      |
| 担当者名             | 区分  | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 中園 佐恵子           | 選択  | 1  | 臨床心理士、公認心理師  |      |     |      |

## 授業の到達目標

本授業では、心理学的支援とは何かについて学ぶ。代表的な心理療法並びに、カウンセリングの歴史、概念、意義、について学び、さらにそれらの適応及び限界についても触れる。その際、適宜事例も紹介していく。また、今後ますます必要になってくると思われる訪問による支援や地域支援の意義、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援の重要性についても学ぶ。そして、心理学的支援を行う上で必要な、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について、プライバシーへの配慮に触れながら実習などを通して学ぶ。心の健康教育の重要性についても考える。このクラスでは、海星パーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

## 授業の概要

心理学的支援について、①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応、及び限界、②訪問による支援や地域支援の意義、③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④プライバシーへの配慮、⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育、を中心に講義と実習（グループワーク、ペアワーク）を通して心理学的支援とは何かについて学ぶ。

## 授業計画

- 1 心理療法とカウンセリング①
- 2 心理療法とカウンセリング②
- 3 心理療法とカウンセリング③
- 4 心理療法とカウンセリング④
- 5 信頼実習
- 6 助言の実習
- 7 心理学的支援におけるプライバシーへの配慮
- 8 地域支援と訪問支援
- 9 「宝探しの地図」実習
- 10 心理学的支援を要する人の関係者に対する支援
- 11 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション
- 12 コンセンサスの実習
- 13 「共感」実習
- 14 「純粋性」実習
- 15 心の健康教育

## 授業の方法

講義と実習（グループ、ペア）を中心とする。実習の後には振り返りを行い、それを基にレポートを提出してもらう。

## 準備学修

Webで参照すること。

## 課題・評価方法、その他

- ①グループ実習やペア実習の後には、講義の中で振り返りを行い、レポートの提出を求める。
- ②平常点70%、定期試験30%にて評価を行う。

## 欠席について

連絡なしの欠席は大幅な減点の対象とする。

## テキスト

特に用いない。

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 心理学研究法           |     |    | 17387        | Ⅲ    | 春   |      |
| 担当者名             | 区分  | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 中園 佐恵子           | 選択  | 2  | 臨床心理士、公認心理師  |      |     |      |

## 授業の到達目標

心理学における基礎的な研究方法には様々な方法がある。本講義は「心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）」、「データを用いた実証的な思考方法」、「研究における倫理」について学ぶ。実証的な研究方法、データの分析、研究倫理の基礎を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

## 授業の概要

主に心理学における研究方法の基礎知識について学ぶ。研究計画を立て、データを分析し、考察を加えるという基本的な研究の流れと各研究方法について学び、研究する力を養う。

## 授業計画

- 1 心理学における研究
- 2 心理学研究の基礎知識
- 3 先行研究の調査
- 4 研究法の概説 量的研究
- 5 研究法の概説 質的研究
- 6 心理統計法1
- 7 心理統計法2
- 8 実験法
- 9 調査法
- 10 観察法
- 11 面接法
- 12 研究倫理1
- 13 研究倫理2
- 14 研究のまとめ方
- 15 まとめ

## 授業の方法

講義形式を中心に基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

## 準備学修

Webで参照すること。

## 課題・評価方法、その他

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

## 欠席について

学内の規定に従う。

## テキスト

三浦麻子 著『心理学ベーシック第1巻 なるほど！心理学研究法』北大路書房

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 社会・集団・家族心理学      |     |    | 17399        | Ⅲ    | 春   |      |
| 担当者名             | 区分  | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 中園 佐恵子           | 選択  | 2  | 臨床心理士、公認心理師  |      |     |      |

### 授業の到達目標

人は社会の中で生き、他者から影響を受ける存在である。本講義は「対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程」、「人の態度及び行動」、「家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響」について学ぶ。対人関係や集団、人の態度に関わる心の働き、文化や社会から人が受ける影響について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

主に社会心理学と家族心理学の基礎知識を身につける。集団や対人関係、人の態度に関わる心理学的な知識を学ぶ。また、文化や社会から人が受ける影響について学ぶ。最も身近な集団である家族と家族に関わる心理についても学ぶ。

### 授業計画

- 1 社会心理学とは
- 2 認知と感情
- 3 自己概念と自己評価
- 4 ステレオタイプ
- 5 態度と態度変化
- 6 対人関係
- 7 集団と個人1
- 8 集団と個人2
- 9 組織と個人
- 10 集団行動
- 11 心と文化1
- 12 心と文化2
- 13 家族という集団
- 14 家族の心理
- 15 まとめ

### 授業の方法

講義形式を中心に基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法、その他

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。  
平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

学内の規定に従う。

### テキスト

池田謙一・唐沢 穰・工藤恵理子・村本由紀子 著『社会心理学補訂版』 有斐閣

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| 専門分野科目〈こどもの生活世界〉 | クラス |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|------------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 生活文化概論           |     |    | 17405        | I    | 秋   |      |
| 担当者名             | 区分  | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 渋谷 美智            | 選択  | 2  | 公立保育所保育士     |      |     |      |

### 授業の到達目標

子どもの生活は、遊びそのものであり、子どもの人格は遊びを通して形成されるものであるとも言える。日本は四季に富み、四季にまつわる様々な子どもを取り巻く記念日・行事がある。この素晴らしい日本の文化を後世に伝えていくことの重要性を理解し、子どもの生活文化の様々な側面を学ぶことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を考える。

### 授業の概要

現代社会に生きる子どもたちの生活や文化に焦点をあて、そこに生きる子どもたちの諸相を見ていく。体験的学習を織り交ぜ、学生が自らの体験を通して、子ども文化のイメージがもてるようにする。

### 授業計画

- 1 授業の目的 生活科を踏まえて考える生活文化概論
- 2 子ども文化の意義、定義とその構造
- 3 子どもを取り巻く生活環境の変化
- 4 子どもを取り巻く生活環境について
- 5 現代の子どもたちの遊びと生活
- 6 集団遊びの重要性  
異年齢集団の遊びの重要性
- 7 集団遊びの重要性  
地域、公共物とのかかわりについて
- 8 自然とのかかわりについて（教室を出ての実体験）
- 9 自然の中での遊びの重要性
- 10 伝承遊びについて
- 11 児童文化財について
- 12 1年を通して、季節の子どもの文化と遊び
- 13 季節の遊びについて（お正月）
- 14 子どもを取り巻く「ひと」「もの」「こと」
- 15 まとめ・定期試験

### 授業の方法

講義・演習・実践により進める。

### 準備学修

webで参照すること。

### 課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。  
平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

### テキスト

必要書類については、随時プリントを配布する。

### 参考図書

子どもとあそび 仙田満著 岩波新書  
児童文化 皆川美恵子、武田京子著 ななみ書房  
子どもに伝えたい年中行事・記念日 萌文書林

### 留意事項

実践を多く取り入れるため、授業計画についてはかなり変更があるので、教務課前掲示板を確認しておくこと。

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

|                  |     |    |              |      |     |      |
|------------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈こどもの生活世界〉 | クラス |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 乳幼児心理学           |     |    | 17445        | Ⅱ    | 秋   |      |
| 担当者名             | 区分  | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 渡邊 恵梨佳           | 選択  | 2  |              |      |     |      |

授業の到達目標

乳幼児期の運動・知覚・認知・知性・言葉・社会性・遊びの発達について学ぶ。乳幼児期の発達過程における基本的な理論や知識を身につけ、乳幼児に対する理解を深める。また、人の一生の中で乳幼児期がどのような時期なのかについて考察を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

保育者として実践にかかわる際に、子どもの発達理論の基礎と、発達をとらえる視点を身につけておく必要がある。そのため、この授業では特に乳幼児期の身体・運動、認知、言語発達の過程について、新生児や乳幼児が獲得する能力の豊かさと多様性についての知識を深めるとともに、環境構成された保育場面で対人的な相互作用に着目しつつ学びを深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション:子ども観・保育観と発達
- 2 子どもの発達と環境
- 3 子どもの身体的機能と運動の発達
- 4 子どもの情動や感情と社会性の発達
- 5 乳児期の知覚・認知発達
- 6 乳児期の感覚運動発達
- 7 乳幼児期の言葉の獲得と発達
- 8 子どもの心理的な発達(心の理論)
- 9 幼児期の認知発達(思考と行動)
- 10 子どもの自己中心性
- 11 発達障害の理解と心理①ASDと療育
- 12 発達障害の理解と心理②SLDとADHD
- 13 対人的なコミュニケーションを通じた発達
- 14 子どもの特性に応じた学びの体験や環境の構成
- 15 子どもの発達課題と学びを支える保育者の役割や対応

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%で評価する。

欠席について

学内規定に準ずる。

テキスト

適宜配布する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

|                  |     |    |              |      |     |      |
|------------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈こどもの生活世界〉 | クラス |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 学習・言語心理学         |     |    | 17447        | Ⅱ    | 秋   |      |
| 担当者名             | 区分  | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 中園 佐恵子           | 選択  | 2  | 臨床心理士、公認心理師  |      |     |      |

授業の到達目標

人は言語を獲得することを通して、思考や行動の統制、気持ちを表現する力を身に付ける。本講義は「人の行動が変化する過程」と「言語の習得における機序」について学ぶ。人が新たに行動を獲得する心理学的な理論及び、言語を獲得する発達過程、言語の持つ力、心理学のナラティブ理論について学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

子どもの行動の学習とことばの発達過程について学ぶ。前半は、人が新しい行動を身に付ける過程を示した学習理論や、動機づけ、認知について学ぶ。後半は、言葉の発達過程を中心に、言葉と自己、思考、行動のコントロールについて学ぶ。また、言葉に関わる心理学の分野であるナラティブについても学ぶ。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 学習理論1
- 3 学習理論2
- 4 学習理論と動機づけ
- 5 自己とことば1
- 6 自己とことば2
- 7 ことばの発達1
- 8 ことばの発達2
- 9 ことばの発達3
- 10 ことばの発達4
- 11 思考とことば
- 12 行動のコントロール
- 13 ことばを育むために
- 14 ことばにおけるナラティブ理論
- 15 まとめ

授業の方法

講義形式を中心に、具体例を紹介しつつ、基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

準備学修

毎日30分程度、予習・復習を行う。

課題・評価方法、その他

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。  
平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

松川利広監修 横山真貴子編著 『子どもの育ちとことば』教育情報出版

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 障害者・障害児心理学   |     |    | 17783        | Ⅱ    | 秋   |      |
| 担当者名         | 区分  | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 中園 佐恵子       | 選択  | 2  | 臨床心理士、公認心理師  |      |     |      |

## 授業の到達目標

本講義では、障害をもつ子どもたちへの教育、障害理解のための心理社会的知識、特別支援教育の在り方を学ぶことを目的にしている。「身体障害、知的障害及び精神障害の概要」と「障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援」について、特別支援教育の観点から学ぶ。このクラスは、KAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とI（知性）を考える。

## 授業の概要

特別支援教育の制度、背景、どのような取り組みがなされているのかを学ぶ。それだけでなく、障害理解のために必要な専門知識を身に付ける。それらを踏まえ、子どもの一生涯における発達と教育の在り方について考える。

## 授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 特別支援教育の現状
- 3 視覚障害の理解と特別支援教育
- 4 聴覚障害の理解と特別支援教育
- 5 言語障害の理解と特別支援教育
- 6 知的障害の理解と特別支援教育
- 7 発達障害の理解と特別支援教育 1
- 8 発達障害の理解と特別支援教育 2
- 9 肢体不自由の理解と特別支援教育
- 10 それぞれの障害の理解と特別支援教育 1
- 11 それぞれの障害の理解と特別支援教育 2
- 12 特別支援教育の変遷
- 13 生涯発達支援について 1
- 14 生涯発達支援について 2
- 15 まとめ

## 授業の方法

講義形式を中心に、受講者が実際の教育現場でどのように実践するかを考える時間を設ける。

## 準備学修

毎日テキストを30分程度、読む。

## 課題・評価方法、その他

考える時間を設けた後は、担当教員からフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

## 欠席について

学内の規定に従う。

## テキスト

高橋 智 編著『インクルージョン時代の障害理解と生涯発達支援』（日本文化科学社）

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 教育実習指導（小学校）  | 教職小 |    | 17785        | Ⅲ    | 春   |      |
| 担当者名         | 区分  | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 濱田 誠二郎       | 選択  | 1  | 公立小学校教員      |      |     |      |

## 授業の到達目標

小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身に付ける。また、教育実習の成果と課題を振り返り、さらに身に付けるべき知識や技能等について理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

## 授業の概要

教育実習に必要な基礎的・基本的な知識、教育現場の現状や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例や実践を通して、小学校教師の様々な仕事と職責について学ぶ。

## 授業計画

- 1 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、小学校教育実習を受ける前に
- 2 実習校との事前打合せ、小学校の組織と日程
- 3 実習中の心得(勤務、礼儀、言葉遣い、服装、持ち物)
- 4 実習中の心得(学級経営、給食指導、休み時間)
- 5 児童や教職員との接し方
- 6 実習記録の書き方
- 7 学習指導と生徒指導
- 8 算数科模擬授業(低学年)
- 9 算数科模擬授業(高学年)
- 10 教育実習の成果と課題

## 授業の方法

書く活動と発表を多く取り入れる。

## 準備学修

テキストの指定ページを予習したり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

## 課題・評価方法、その他

- ①指導案と模擬授業について、評価とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

## 欠席について

欠席は10点減点し、遅刻は3点減点する。

## テキスト

石橋裕子・梅澤実・林幸範『小学校教育実習ガイド』萌文書林

## 参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説』東洋館出版社

## 留意事項

小学校教育実習の知識や技術を修得し、教師としての心構えを学ぶ授業であることを認識して授業に臨むこと。

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。